NEWS RELEASE

2026 年 11 月 25 日
VicOne 株式会社

VicOne、「RoboNext2026」に出展　ロボットの認識・動作に及ぶサイバーリスクを、実機を用いた攻撃デモで可視化

～ロボットをサイバー攻撃から守る重要性が高まるなか、フィジカル AI 向けセキュリティソリューションを紹介～

トレンドマイクロ株式会社（東京都新宿区、代表取締役社長（CEO）エバ・チェン）の子会社で、自動車向けサイバーセキュリティを軸にフィジカル AI 領域へ取り組みを広げる VicOne 株式会社（ヴィックワン、東京都渋谷区、最高経営責任者（CEO）マックス・チェン）は、2026 年 12 月 2 日（水）～4 日（金）にインテックス大阪で開催されるロボット技術の展示会「RoboNext2026」に出展します。

「RoboNext2026」は、一般社団法人日本ロボット工業会と日刊工業新聞社の主催で、「ロボットをもっと身近に、そして未来（あす）へ。」をテーマに、ロボット活用の可能性を広げ、多くの方がロボットに触れられる場として開催されます。

今回、VicOne のブースでは実際のロボットを用いた攻撃デモを通じてフィジカル AI におけるセキュリティ上の課題をお伝えし、その対策に向けたセキュリティソリューションを、パネル展示と担当者による個別説明でご紹介します。

■ロボットのセキュリティが求められる背景

ロボットの活躍の場は、柵で人と隔てられた工場の中から、人と同じ空間で荷物を運び、接客や作業を担う場へと広がっています。AI が周囲の状況を認識し、判断・制御を担うフィジカル AI で

は、サイバー攻撃による影響が情報の漏えいやシステム停止だけでなく、機器の動作にも及ぶ可能性があります。

こうしたリスクは、規制や指針の中でも想定され始めています。2027 年 1 月 20 日に適用が始まる EU 機械規則（2023/1230）では、ロボットを含む機械の制御システムに、悪意ある第三者の干渉を受けても危険な状況を招かないことが求められます。国内でも、AI セーフティ・インスティテュート（AISI）は、2026 年 7 月に公開した「AI ロボティクスに関するセーフティ評価観点ガイド」で、ロボットがサイバー攻撃で乗っ取られ、不適切な動作を行うことをリスクの例に挙げています。国内外のこうした動きを受け、サイバーセキュリティへの備えはロボットの開発や運用に欠かせないものになりつつあります。

■主な出展内容

ロボットへの攻撃デモ



フィジカル AI のサイバーリスクを可視化するデモをライブ実演します。デモには四足歩行ロボットと、ロボットアームを備えた移動型ロボットを使用し、プロンプトインジェクション（AI への入力に不正な指示を紛れ込ませる攻撃）や、公開済みの脆弱性を悪用した乗っ取りなど、AI モデルや制御システムへの攻撃によってロボットの動きがどのように変わるのかを、実際の動作を通じてご紹介します。

また、ロボットに触れていただける体験コーナーも設ける予定です。

フィジカル AI 向けソリューション紹介

VicOne は、自動車分野で車両のコネクテッド化やソフトウェア化に伴うサイバーセキュリティの課題に対応する中で培ってきた知見と脅威インテリジェンスを基盤に、フィジカル AI の設計・開発から運用までを見据えたセキュリティソリューションを提供しています。

ブースでは、攻撃を想定して AI モデルの弱点を洗い出し、NVIDIA Isaac Sim™と連携して実機を使う前にロボットの動作を検証する「Radeis」（レディス）と、通信や動作の異常を検知してロボットを保護し、RSOC（ロボティクス・セキュリティ・オペレーションセンター）による継続的な対応までを担う「Rthena」（アテナ）を中心にご紹介します。

このほか、ペネトレーションテスト「xScope」と、EU サイバーレジリエンス法（CRA）や EU AI Act への対応を支援する「CRA Studio」についてもご説明します。

■VicOne 株式会社 日本地域代表 カントリーマネージャー 小田 章展のコメント

「『ロボットをもっと身近に』をテーマに掲げる RoboNext では、サイバー攻撃がロボットの動作にどのような影響を及ぼすのかを、開発に携わる方々だけでなく、ロボットを活用する方々にもご覧いただきたいと考えています。サイバー攻撃への備えには、開発段階でリスクを把握するだけでなく、運用開始後も脆弱性や脅威を継続的に把握し、適切な対策を講じることが重要です。

VicOne は、開発と運用の両面を支えるソリューションを通じて、ロボットの設計・開発から運用までを一貫して守ります。今後も自動車分野で培った知見や脅威研究の成果を活かし、フィジカル AI の社会実装および安心安全性の向上を支えてまいります。」

■「RoboNext2026」開催概要

【日時】2026 年 12 月 2 日（水）～4 日（金）10:00～17:00　※4 日（金）のみ 16:00 まで
【会場】インテックス大阪 6 号館 B ゾーン
（〒559-0034 大阪府大阪市住之江区南港北 1-5-102）
【主催】一般社団法人日本ロボット工業会、日刊工業新聞社
【展示内容】ロボットへの攻撃デモ（実演）、フィジカル AI 向けセキュリティソリューションの紹介
【VicOne ブース】6 号館 B ゾーン B-05
【公式サイト】https://robonext.nikkan.co.jp/

VicOne について

VicOne はトレンドマイクロの子会社として設立され、これからの自動車を守るというビジョンのもと、コネクテッドカーや SDV（ソフトウェア定義車両）など車両のデジタル化が進むモビリティ領域に向けてサイバーセキュリティソフトウェアおよびサービスを提供し、セキュリティ体制の構築を支援しています。
VicOne はこの自動車分野で培った技術と脅威インテリジェンスを基盤に、ヒューマノイドを含むロボットやドローンなどのフィジカル AI 領域へも事業を展開しています。AI が機器の判断や制御を担いつつある今、イノベーション研究ラボ「LAB R7」を通じて AI ロボティクスを中心とした脅威研究やフィジカル AI 向けセキュリティ技術の研究開発に取り組んでいます。

〈会社概要〉

日本法人名	VicOne 株式会社（英語名：VicOne Corporation）
グローバル代表 CEO	マックス・チェン
日本法人役員	会長　マヘンドラ・ネギ、マックス・チェン等
設立日（台湾）	2022 年 6 月
設立日（日本）	2023 年 6 月（登記月）
従業員数（グローバル）	約 120 名
本社所在地	東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-27-5 リンクスクエア新宿
事業内容	自動車およびフィジカル AI 向けサイバーセキュリティソリューションの開発
URL	https://www.vicone.com/jp